

ふりがな氏名	ふくとみ けんすけ 福富 健介
学位の種類	博士（歯学）
学位記番号	乙 第1654号
学位授与の日付	令和5年6月28日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項に該当
学位論文題目	Oral health-related quality of life assessment for various oral conditions (様々な口腔状態が QOL に与える影響の評価)
学位論文掲載誌	Journal of Osaka Dental University 第57巻 第1号 令和5年4月
論文調査委員	主査 馬場 俊輔 教授 副査 三宅 達郎 教授 副査 野崎 中成 教授

論文内容要旨

近年、医療は世界的に革命期を迎え、医療技術の価値が問われている。口腔領域において、インプラントに関する医療経済評価は存在するが、現在までに効果として世界で広く使用されている口腔分野の QOL 尺度を使用した医療経済評価研究は少ない。さらに口腔領域において、質調整生存年 (QALY) を算出することが可能な QOL 評価票もほとんど存在していない。QALY を算出するためには utility score が必要であり、utility score を算出するには、一般の人々の価値観を反映するために、インデックス型尺度を使用することが推奨されている。本研究は、インデックス型尺度である Time Trade Off (TTO) 法を用いて、さまざまな口腔状態の utility score を算出することを目的とした。

全国の一般の人々を対象としてコンピューター端末を使用した調査を実施した。各個人からはコンピューター上で提示された仮想的な 17 種類の口腔状態（5 種類の歯の欠損状態とそれぞれに治療介入した状態）について、TTO 法による utility score の回答を得た。

2193 名から得られた回答が解析対象となった。歯の欠損状態別において、欠損本数が多くなるに従って、utility score は低下することが明らかとなった。また、すべての口腔状態で、ヒストグラムにおける utility score には、データの二峰性が認められ、治療介入すると、二峰性のデータはシフトし、utility score が高くなることが明らかとなった。本結果から、日本人の価値観を反映した口腔状態別の utility score を算出することができた。以上より歯の欠損が utility score に影響することが明らかとなった。

今後は質問票の妥当性・信頼性に関する検討を行うとともに、調査員一人につき回答者一人の対面形式で調査を実施することも考慮する必要がある。口腔環境が QOL にどの程度の影響を与えるかを把握し、各口腔健康状態別の国民標準値を設定できれば、わが国における医療経済評価のさらなる進展が期待できる。

論文審査結果要旨

著者の本研究では、インデックス型尺度である Time Trade Off (TTO) 法を用いて、さまざまな口腔状態の utility score を算出することを目的とした。

その結果、歯の欠損状態別において、欠損本数が多くなるに従って、utility score は低下することが明らかとなった。また、すべての口腔状態で、ヒストグラムにおける utility score には、データの二峰性が認められ、治療介入すると、二峰性のデータはシフトし、utility score が高くなることが明らかとなった。本結果から、日本人の価値観を反映した口腔状態別の utility score を算出することができた。以上より歯の欠損が utility score に影響することが明らかとなった。

本方法を用いて、口腔環境が QOL にどの程度の影響を与えるかを把握し、各口腔健康状態別の国民標準値を設定できれば、わが国における医療経済評価のさらなる進展が期待できると考えられた。

以上、これらの観点から、本論文は博士（歯学）の学位を授与するに値すると判定した。

なお、外国語 1 か国語（英語）について試問を行った結果、合格と認定した。